

令和3年 2月号

家庭教育学級

のびっこ

恵那市生涯学習課

社会教育指導員 堀



“無い無い尽くし”の中の工夫 学級生と主事の働き！！

コロナ禍では計画した活動を進めることができず、変更を余儀なくされることがありました。特に「子連れ防災」など、講師を招いて学ぶ活動は目前になって実施できなくなってしまいました。そこで代役を務めてくれたのが、コミュニティセンターの主事さんです。

自ら下調べや事前実習を入念にして、当日を迎えます。防災食の活用方法を教えてもらい、師範実習もしてくれました。もちろん、作ったものを試食できませんでしたが、学級生は防災に対する意識を高めることができました。



【学級生の声(アンケートの回答より)】

- ☆ すぐに取り入れやすい内容を教えてもらえます。特に子連れ防災はとても為になるので、自宅に帰ってから、見直すことができました。
- ☆ たくさんの友だちと遊ぶことができ、和気あいあいとした楽しい雰囲気でもめていただき、子どもや参加者のことを考えた開催を心がけてもらっているのが、ありがたいなあと思っています。
- ☆ 子育ての悩みについて共有したい相談したいできると、とても励みになるので、そういった場があるので、よいと思いました。
- ☆ 11年前から参加していますが、年々、内容も充実して、とても楽しいです。配られる通信に書いてあることを読んで、「あーなるほど」と思うことがあります。
- ☆ 子育ての悩みやおもちゃ作りなど、親も学べる場で、子どもと一緒に参加しています。

学級生が書いてくれたアンケートの言葉に、主事さんの頑張りを称え感謝する気持ちが込められていることが伝わってきます。主事さんの“乳幼児期の家庭教育学級”に対する熱意を感じ取ってくれている証ですね。

本年度は9月から開級しましたが、ずっと活動が続けられるか不安な状況のなか、みんなで作り上げた“乳幼児期の家庭教育学級”という思いが強いです。学級生も主事さんもすごい底力を発揮しました！

互いの支えあい相乗効果を生み 素敵な学びに (o)

佐藤一斎先生の『言志四録』の教えを子育てに生かす

かれ し かた に やす
彼を知るは、難きに似て易く、
おのれ し やす に かた
己を知るは、易きに似て難し。

(言志晩録103条)

相手のことを知るのは、難しいようで意外と簡単です。簡単なようで実際のところ一番難しいのは、自分自身を知ることです。自分自身を見る時、人はどうしても主観を交えて見てしまうため、つい本当の自分の姿を見誤ってしまいます。客観的に自分自身を見ることは難しいというのを、心しておくべきです。

一番見えないのが、自分の姿です。
「自分を見る時こそ、客観的に！！」



エーナちゃん

家庭教育って、親子でさっきまでの行動を振り返ることかな

佐藤一斎先生の言葉を読みながら、米国のロバート・フルガム氏の『人生に必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ』という本を思い出しました。(一部抜粋)

人間、どう生きるか、どのように振る舞い、どんな気持ちで日々を送ればいいのか、本当に知っていなくてはならないことを、私は全部残らず幼稚園で教わった。人生の知恵は大学院という山のとっぺんにあるのではなく日曜学校の砂場に埋まっていたのである。私はそこで何を学んだろうか。何でもみんなで分け合うこと。ずるをしないこと。人をぶたないこと。使ったものは必ず元の所に戻すこと。散らかしたら自分で後片付けをすること。人の物に手を出さないこと。誰かを傷つけたらごめんなさいと言うこと。食事の前には手を洗うこと。……不思議だな、と思う気持ちを大切にすること。

子どもは世界で一番大好きなママを真似しながら成長します。真っ白いキャンパスにどんどんママ色の絵の具が広がっていくようです。心も行動もです。ママは我が子を見ると、自分はどんな色をしているのか分かりそうです。これからどんな色にするのか、親子で見つきたいですね。